

『電気・情報職 総まとめ講座 電磁気学・電気回路』(KU23439)

訂正表

2026年4月8日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
P. 29	[No. 1] 解説 6 行目	誤	鏡像の導線による電界から受けるクーロン力は,	2023/5/18
		正	鏡像の導線による電界から受けるクーロン力の大きさは,	
P. 41	説明文の最後の段落	誤	物質中の磁気モーメントの振る舞いによって、磁性体としての性質が決まる。外から磁場を掛けたときに、磁気モーメントが磁場と同じ方向を向きやすいものは強磁性体と呼ばれる。これらの中でも保磁力の小さい強磁性体は、変圧器や電動機などの高透磁率材料として使われる。また、保磁力と残留磁化が大きい強磁性体は磁石である。	2026/4/8
		正	物質中の磁気モーメントの振る舞いによって、磁性体としての性質が決まる。外部から磁場をかけたときに、磁気モーメントが磁場と同じ方向を向きやすい物質は、常磁性体と呼ばれる。アルミニウムなどは磁石にはつかないが、非常に弱い常磁性がある。しかし、一般には外部の磁場を取り去ると、磁気モーメントは元の乱雑な状態に戻ってしまう。 常磁性体の中でも特に保磁力の大きい物質を強磁性体といい、変圧器や電動機(モーター)、電磁石、磁気記録などに用いられている。また、外部の磁場を取り去っても磁気モーメントが揃っているものがいわゆる永久磁石である。常温において強磁性を示す元素は鉄、ニッケル、コバルトである。 なお、外部磁場をかけたときに、磁場の逆向きに磁化される物質を反磁性体という。これは外部磁場を打ち消そうとする電磁誘導が起源であり、全ての物質が示す性質であるが、一般には非常に弱い。	

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>)に掲載された日付です。